

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 54人

② 算数 54人

③ 理科 54人

5 留意事項

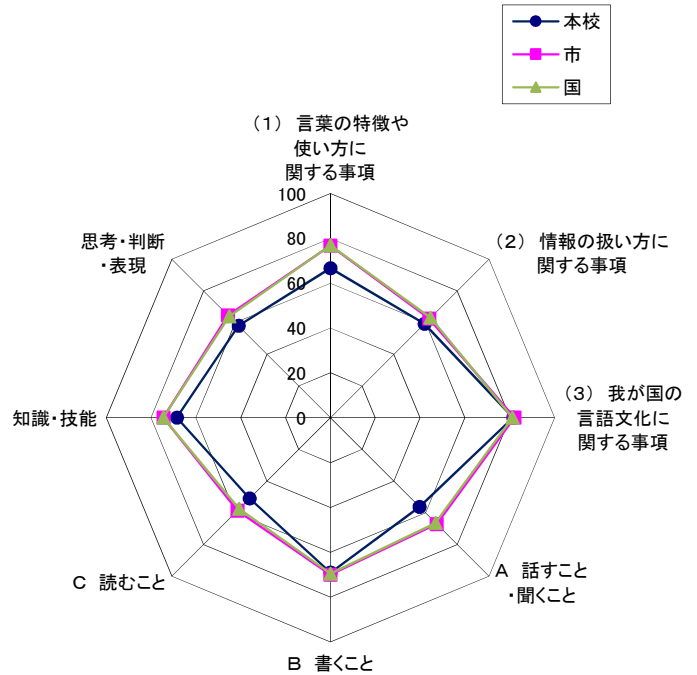
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	66.7	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	59.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	56.2	67.0	66.3
	B 書くこと	69.1	70.0	69.5
	C 読むこと	50.9	58.6	57.5
観点	知識・技能	68.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	58.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

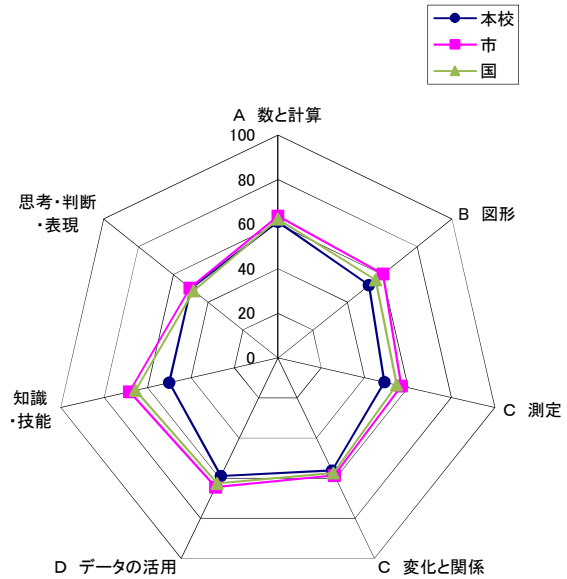
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国の平均より低い。 ●漢字を書くことに関する設問では、全国の平均正答率より低く、文脈に合った漢字の使い方の理解について課題が見られる。	・漢字の読み書きは、基礎・基本となるため、朝の学習や家庭学習の時間を活用して漢字練習を行い、小テストで定着度を確認しながら基礎的な漢字の読み書きの力を身に付けさせる。 ・新出漢字を学習する際は、漢字の成り立ちや部首からその漢字が持つ意味を正しく理解できるよう指導し、漢字を正しく使うことができるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国の平均より低い。 ●話し合いの記録の仕方を読み取る設問では、全国の平均正答率より低く、課題が見られる。	・授業の中で、登場人物の関係性や言葉と言葉の関係を図で示したり、書く活動を行ったりすることで、情報を受動的に受け取るだけでなく、能動的に活用する力を高めていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国の平均とほぼ同じである。 ○時代の経過による言葉の変化に関する設問に関しては、比較的良好にできている。	・ことわざや故事成語の由来を調べたり、俳句や短歌を創作する活動を行ったりすることで、日本語のよさや言葉の奥深さに気付くことができるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国の平均より低い。 ●話の中心を明確にするための工夫を捉えたり、話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目したりしながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・話し合い活動を多く取り入れ、目的をはっきりさせながら話し合いに参加し、自分と違う考えに対しては、相手の意図を考えながら意見を聞くことができるように支援する。
B 書くこと	平均正答率は、全国の平均とほぼ同じである。 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることがよくできている。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えを工夫して伝えることに課題が見られる。	・段落構成について復習し、構成を考えながら文章を書くことができるようにする。 ・要約について復習し、読んだ文章の核心を短くまとめることで、情報の抽出能力を鍛えていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国の平均より低い。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られる。	・物語や説明文を読み取るときに、文章の要点となるキーワードを押さえることを学級全体で行うなどして、中心となる事柄や場面の様子を読み取ることができるようにする。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.1	63.6	62.3
	B 図形	52.3	60.4	56.2
	C 測定	49.1	56.9	54.8
	C 変化と関係	56.2	58.6	57.5
	D データの活用	58.9	64.4	62.6
観点	知識・技能	50.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	50.0	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

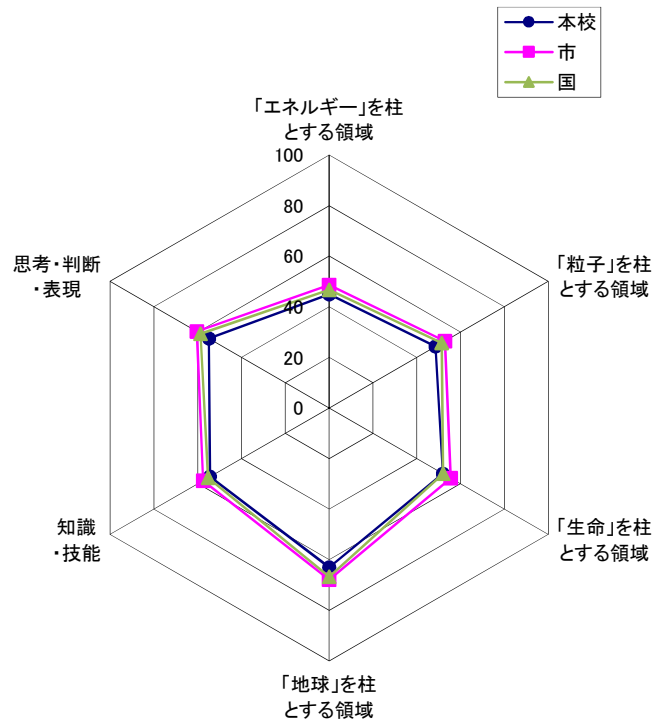
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国の平均よりやや低い。</p> <p>○数直線上に示された分数を書くことはよくできていた。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係について式や言葉で記述することに課題が見られる。</p>	<p>・問題文の内容を正確に捉えられるよう繰り返し指導を行うとともに、説明や理由を式や言葉でまとめる活動を多く取り入れ、式や言葉を用いて求め方を表現する力を伸ばしていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国の平均より低い。</p> <p>○方眼上の五つの図形の中から台形を選ぶ設問において、台形の意味や性質について理解できている児童が多い。</p> <p>●五角形の面積を求めるために、基本図形に分解して、求め方を式や言葉で記述することにおいて課題が見られる。</p>	<p>・コンパスを使った作図方法の定着を図るために、作図の練習を繰り返し行い、図形の構成要素についての理解に努める。</p> <p>・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、全国の平均より低い。</p> <p>●はかりの目盛りを読むことに課題が見られる。</p>	<p>・目盛りの読み方を確認するとともに、理科や家庭科などの実験や実習ではかりを活用する機会を増やし、目盛りを読み取る力を伸ばしていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国の平均よりやや低い。</p> <p>○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを求める設問では、全国の平均正答率より高い。</p> <p>●伴って変わる二つの数量関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を選択し、知りたい数量の大きさの求め方や式を記述することに課題が見られる。</p>	<p>・「割合」の意味を正しく捉えらるとともに、「もともとなる量」と「比べる量」を区別することについての理解を深め、具体的な場面で活用できるように、繰り返し指導していく。</p> <p>・対応する二つの数量を捉え、問題を求めるために必要な数量が何かを考える活動を通して、求め方や式で表す力を育てる。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国の平均より低い。</p> <p>●目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することや、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことに課題が見られる。</p>	<p>・社会や理科などの統計資料や実験データを扱う単位との関連を図りながら、教科横断的な指導を行い、表やグラフを読み取る力や、読み取ったことについて言葉で表現する力を高めていく。</p>

宇都宮市立陽南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	48.5	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	51.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	63.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	54.9	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国の平均より低い。</p> <p>●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることなど基礎的な知識の定着に課題が見られる。また、電気の回路のつくり方について、追加された情報をもとに実験の方法を発想し、表現することに課題が見られる。</p>	<p>・1人1台端末のドリルなどを活用し、繰り返し問題に取り組みせることで、基本的な知識の定着を図る。</p> <p>・国語や社会など他教科と教科横断的な指導を行い、出題の意図を正確に読み取る力や活用する力を育む。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国の平均より低い。</p> <p>○●温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明することは、蒸発においてはよくできているが、結露については課題が見られる。</p> <p>●問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題が見られる。</p>	<p>・身近な事象と知識を関連付けて理解できるよう、映像資料の活用や、体験的な学習の充実を図る。</p> <p>・予想、実験、結果、考察の手順を丁寧に行い、事象とその理由のつながりを意識した学習を継続していく。結果につながる条件が変わるとどうなるのかということも併せて考察できるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国の平均とほぼ同じである。</p> <p>○顕微鏡の使い方を理解している。また、種子の発芽条件を調べるために、適切な実験方法を発想し、表現することができた。</p> <p>●レタスの種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することに課題が見られた。</p>	<p>・実験や観察の結果からの推測や考察の記述に関しては、参考となるキーワードを示すことで、自分の考えを言葉で表す力を育むことができるようにする。また、共通点や差異点に着目させ、なぜそのような結果になったのか科学的根拠をもって考察させるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、全国の平均より低い。</p> <p>●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて結果を基に結論を導いた理由を説明することに課題が見られた。</p>	<p>・単元により基礎・基本の定着に差が見られたため、単元のまとめにおいて学習内容を確認する時間を設けるなど、復習により知識の定着を図る。</p> <p>・記述式の問題に課題が見られたため、学習問題に対する予想を考えたり、実験結果から考察する活動を充実させたりするとともに、自分の言葉でノートに書いたり、友達と伝え合ったりしながら、適切な表現で記述できる技能を高めていく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の問いに対する肯定割合は87.3%で全国の平均と比べて5.4ポイント高い。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の問いに対する肯定割合は96.4%と全国の平均と比べて5.4ポイント高い。生活リズムを整えることの大切さや生活リズムが学習への取組に与える影響などについて指導を継続したい。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除く)」の問いに対して1時間以上と回答した児童の割合は27.2%で全国の平均と比べて7.6ポイント高い。引き続き情報機器に関する指導を継続していくとともに、学習の中で効果的に情報機器を使えるよう声掛けをしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の問いに対して1時間以上と回答した児童の割合は20%で全国の平均と比べて11.1ポイント低い。朝の読書の時間や週末の家読の宿題を活用し、読書指導に力を入れていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」の問いに対して週3回以上と回答した児童の割合は63.6%で全国の平均と比べて8.1ポイント低い。また、その後のICT機器を活用した効果に関する問いでは、全国の平均とほぼ同じかやや高い肯定的回答割合であった。今後、1人1台端末を活用できる場面を増やし、更に学習効果を高めていけるよう工夫したい。

●「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対する肯定割合は74.6%、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」の問いに対する肯定割合は74.9%と、それぞれ全国の平均と比べて5.7ポイント、2.9ポイント低い。授業形態や教材等をさらに工夫して、自分の考えをまとめたり、課題解決に向けて取り組んだりしようとする態度の育成を図りたい。

宇都宮市立陽南小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数、習熟度別など、単元や活動に応じて、TTを効果的に活用した個に応じた指導を行う。 ・朝の学習の時間にAI型学習ドリルの活用も含めた国語・算数の学習を行ったり、授業において漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったりするなど、学習内容の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の「我が国の言語文化に関する事項」では、全国平均をやや上回る結果となった。その他の教科、領域においては、全国平均を下回る結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語・算数・理科において、基礎学力の定着が課題である。また、記述式問題に苦手意識をもつ児童が多く見られた。	基礎・基本の確実な定着 児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く学習を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字や言葉の正しい表記や文法なども併せて指導する。 ・少人数での話し合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。